

令和8年3月31日

専門学校社会医学技術学院
学院長 殿

学校関係者評価委員会

令和7年度学校関係者評価委員会報告書

令和7年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員（アイウエオ順）

- 大関 健一郎（養成校・帝京科学大学医療科学部作業療法学科・作業療法士）
- 清水 由美子（卒業生・社会医療法人社団 健生会 法人事務局社保組織部・作業療法士）
- 瀬戸 景子（実習地・医療法人社団 永生会 南多摩病院・理学療法士）
- 田村 浩子（自治体・小金井市福祉保健部 介護福祉課 包括支援係）
- 濱野 智徳（地域・濱野智徳公認会計士税理士事務所）
- 百田 昌央（就職先・社会医療法人 河北医療財団 多摩事業部 天本病院・理学療法士）
- 森川 美智恵（高等学校・聖パウロ学園高等学校進路指導担当）

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和7年8月7日（会場 社会医学技術学院）
- 第2回委員会 令和8年1月29日（会場 社会医学技術学院）

3. 学校関係者評価 結果報告

別紙のとおり

学校関係者評価報告書(令和7年度)

<p>基準1 教育理念・ 目的・ 育成人材像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育理念・教育目標が明確に示され、学生・保護者・地域に対して提示されている点は評価できます。入学時基礎力調査や入学前ガイダンスの導入により、早くから学生の理解を促し、また学生の特性を知る工夫がなされていると思います。今後は、教育理念を普段の学校生活や臨床実習により直接的に結び付ける工夫ができると良いと思います。 ② 小金井市との連携協定について、行政との連携が人材育成の場面においてもプラス面があると思われる。回復期や生活期の病院や施設では地域との連携に関しての理解が益々必要になってくるため、学生時から地域活動を積極的に行うことができるような内容になることに期待します。 ③ 引き続き、高い教育理念をもって教育に向き合っていただきたい。 ④ 特になし。 ⑤ 入学時基礎力試験の分析を活かして、国試の合格率に成果が出ています。一方で、退学者数と休学者数が増加しており、その対応策の効果について留意が必要です。募集の定員割れを起こしているため、PT・OTの良さを社会に伝えるとともに、学校の認知度の向上を図る必要があります。 ⑥ 社会の状況を鑑みながら、育成人材像を見直していると思います。 ⑦ 人材育成に関しては本質を大事にしつつも現在の社会から求められている人材の姿を見失わないように努力されていると感じます。
<p>基準2 学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 作業療学科昼間部開設など柔軟な再編を行い、定員確保に向けた努力が見られる点は評価できます。一方で、夜間部の入学者減少や退学・休学者数の増加は依然として問題であると考えられます。学校の強みの一つである卒業生の多さ、各分野で活躍されている人材の輩出などを前面に打ち出し、少子化環境下でも選ばれる学校運営となることを期待します。 ② OT夜学がなくなり昼間部となったことで、定員確保に向けて効果であるように感じます。一方で若い世代の学生が多くなることが予測されるため、競合の各大学との差別化を行っていき、社医学の伝統の継続することと、新しい魅力の開発に期待します。 ③ Web出願など新たな手法を取り入れていることは評価できるが、定員割れ、退学者がなくならないなどで学納金が目減りしている。入学者確保とともに、退学者0を掲げていただきたい。 ④ 特になし。 ⑤ 良い運営ができていますが、退学者数と休学者数の増加に留意が必要です。 ⑥ 適切な学校運営のため、苦勞されていることがわかりました。少子化がますます進み、学生の確保等をどう進めていくのか課題は多いと思いますが、期待しております。 ⑦ 各機関との関係構築は学校の魅力化につながるのではないかと思います。「初級パラスポーツ指導員資格取得認定校」など、うまくアピールしているのではないのでしょうか。またWFOT（世界作業療法士連盟）の認可を受けられましたが、今後海外で活躍したい学生、さらには留学生の募集対策としてもアピールできるのではないかと考えます。

<p>基準3 教育活動</p>	<p>① 国家試験合格率の高さや臨床実習指導体制の整備は素晴らしいです。今後は、国試合格にとどまらず、臨床現場で即戦力となる思考力や主体性を育成する仕組みが望まれます。残念ながら現在の新入職員が1スタッフとしてある程度業務ができるようになるまでにかかる時間がどんどん延長しているように感じます。特に、主体的に動く、学ぶ姿勢を見せることのできる人が少ないように感じます。ぜひより良い臨床家の輩出に向け尽力頂きたいと思います。</p> <p>② 時代の変化などにあわせて様々な取り組みが行なわれていることが分かった。当法人においては、各スタッフの卒業した学校により考え方や行動、働き方に一定の特徴がみられることも少なくない。例えば、「研究することを中心に考える」、「運動器疾患にしか興味を示さない」、「病院のリハビリ以外を軽くみてしまう」など。これはもちろん長所でもあるが、働く場所によっては対応力がないと評価されることもある。当法人の社医学卒業生はそういった偏りが少ない印象があります。また、実習や就職説明会などで学生と接する中で、素直でコミュニケーションがしっかりとれる学生が他校と比べても非常に多い印象があります。広範囲に興味を持って、対応力もあり、コミュニケーション能力の優れたセラピストを養成していると感じています。</p> <p>③ 再々試験の実施を検討しているとのこと。しかし、会議内で挙げた高額な受験料は課さない方がよいと思われる。この手法は所謂オペラント条件付け（負の強化子）での学習療法であるが、再々試に至る学生は、高額な受験料を課すことで前門の虎後門の狼状態になり葛藤状態に陥り動けなくなり学校に来なくなる可能性がある。つまり、退学への道しるべを作る可能性も同時に含まれている。</p> <p>④ 特になし。</p> <p>⑤ カリキュラムの改訂が適時に行われており、適切な専門学校教育を行うことができています。</p> <p>⑥ 厚生労働省の指導要領を上回る教育時間・教育内容を実施していることは素晴らしいと思います。また、外部講師等活用し幅広い内容について行っていると思います。</p> <p>⑦ 学生が見通しをもって学習に取り組むことができるように、シラバスをはじめ学習内容のデジタル化を通して、学生自身が目標を設定し学んでいけるような情報の提供をお願いします。</p>
<p>基準4 学修成果</p>	<p>① 就職率や国家試験合格率が良好であり、キャリア支援体制が整備されている点は評価できます。一方で、入学から卒業までの系統的なキャリア教育はさらなる充実が望まれます。卒業生や就職先アンケートを活用し、中長期的なキャリア形成に資する教育内容を強化することが期待されます。リハビリテーション業界だけではなく、社会全体において短期間で転職する流れが一般的になっています。学校側のみならず就職先も長期目線でのキャリア支援を考える必要があると思います。</p> <p>② 国家試験対策が効果的に結果に表れていると思います。</p> <p>③ 引き続き国家試験合格率の向上に努めてほしい。大変ですが、個人で学習する方法以外に、グループ学習、eラーニング、アクティブラーニングなど幅の広い学習方法の選択肢を提供できれば良いかと思います。</p>

<p>基準4 学修成果</p>	<p>④ 特になし。 ⑤ 社医学国家試験対策マニュアル策定などの努力が実り、国試の合格率が上昇しました。 ⑥ 国家試験合格率が全国平均を上回っていることは強みだと思います。 ⑦ キャリア教育では、就職までの手順や社会人としてのスキルを身につけさせるだけでなく、もっと自分自身の専門性を高め、生きがいや仕事のやりがいを実感させることのできるキャリア教育が必要であると考えます。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>① 就職支援・相談体制・経済的支援・健康支援など多面的なサポートが実施されている点は評価できます。学生相談室やカウンセラーの設置も適切です。今後は、休学・退学者の増加への対応が課題であり、早期発見・早期介入の体制づくりが求められます。前回の会議の中でもお話がありましたが、先生方や専門職の方が学習障害に近い問題を抱えている学生に対してかなり親身に接していることに驚きました。同時に昨今の学校運営の状況を考えると、ある程度仕方のない状況もあると推察します。 ② 学生寮の設置がないが、定員割れによる収入減を考慮すると、設置による入学者増加、収入の増加が見込めるのではないかと？地方出身者の応募も増加するのではないかと考える。当法人においても就職説明会の際に寮があることをアピールすると応募が大きく増加しました。 ③ 心身の不調を訴えカウンセリングを希望する学生が増えているとのことですが、訴えてきた後のフォローも大切ですが、なぜ在学生在が心身の不調に至るのか、その原因を知りたいです。 ④ 先生方が工夫して対応されていると思いました。 ⑤ 就職活動支援は適切に行われており、高い就職率を実現しています。 ⑥ 学生個々の背景等を丁寧に把握し、きめ細かい支援をしていると思います。 ⑦ 学習支援が必要な学生が増えていくと思います。カウンセリングの研修や個別相談体制など一人ひとりに寄り添った支援をお願いいたします。</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<p>① 法令基準を満たし、施設・設備の整備は概ね良好であると評価できます。経年劣化した機器の更新や図書スペースの確保については、引き続き検討が必要です。最新機器の導入は、学生募集や教育の質向上に直結するため、計画的な整備が望まれます。 ② 自分が学生の頃であった20年前に比べ、全体的に快適な環境になっていると思います。他の大学もきれいな学校が多くありますので負けないよう、引き続き環境改善に努めてください。 ③ 他大学では、理学・作業療法学科に留学生が入学してきています。日本人だけでなく、外国人も対応できるような教育環境を作ってはいかがでしょうか。日本語学校などに話を聞きに行くとよいかもしれません。 ④ 特になし。 ⑤ 安定した教育環境です。 ⑥ 貴重な研究資料等が沢山あることは素晴らしいと思います。引き続き学生が学習に集中できる環境整備を期待しています。 ⑦ 図書室や自習スペースの充実を図っていただければと思います。</p>

<p>基準7 学生の募集と受入れ</p>	<p>① AO 入試の導入や指定校推薦枠の拡大など、積極的な取り組みをされていると感じます。高校生のみならず、社会人や他分野からの入学者確保にも注力することが引き続き重要となると考えます。SNS や Web を活用した広報、卒業生ネットワークを通じた取り組みも検討されてはいかがでしょうか？</p> <p>② 見当違いかもしれませんが、例えば、受験者の上位数を授業料無料に設定することで、受験者数増や優秀な人材の受入れに良い影響は出ないか？受験者が増えれば、退学者や休学者を見越した設定の新入生を受け入れることで一定の授業料確保が出来ないか？と考えましたが、いろいろな弊害があるのだと思います。</p> <p>③ 基準6にも書きましたが、日本人相手だけでは難しい状況かと思えます。グローバルな時代背景もありますが、特に作業療学科で定員を埋めるには外国人受け入れを進めていくべきだと思います。作業療法は世界の資格です。WFOT 加盟国は80国以上です。</p> <p>(正会員)</p> <p>アルゼンチン、アルメニア、オーストラリア、オーストリア、バングラデシュ、ベルギー、ボツワナ、ブラジル、ブルガリア、カナダ、チリ、中国、コロンビア、コスタリカ、クロアチア、キプロス、チェコ共和国、デンマーク、ドミニカ共和国、エストニア、エチオピア、フィンランド、フランス、ジョージア、ドイツ、ガーナ、ギリシャ、ハイチ、香港 SAR 中国、アイスランド、インド、インドネシア、イラン、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、ヨルダン、ケニア、韓国、コソボ、クウェート、ラトビア、レバノン、リトアニア、マダガスカル、マラウイ、マレーシア、マルタ、モーリシャス、メキシコ、モロッコ、ナミビア、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、パレスチナ、パナマ、ペルー、フィリピン、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、ルワンダ、サウジアラビア、シンガポール、スロベニア、南アフリカ、スペイン、スリランカ、スウェーデン、スイス、シリア、タイ、トリニダードトバゴ、チュニジア、トルコ、ウクライナ、アラブ首長国連邦、イギリス、アメリカ、ウルグアイ、ベネズエラ、ベトナム。</p> <p>④ 地域活動にも参加したり、様々な方法で工夫をされていると思いますが、定員が割れてしまうのは残念です。</p> <p>⑤ 定員割れの対策として、引き続き予算を割いて、学校のブランディングと広報を行っていく必要があります。</p> <p>⑥ 少子化により学生の募集は厳しいと思います。ぜひ理学療法士・作業療法士の魅力発信を中学校や高校に出向き、実施していただけると良いと思います。</p> <p>⑦ 文部科学省の方の話では、今後個別最適化が実現できる教育の実践が求められるようです。発達に課題がある児童・生徒に対してその子に合った学習方法で支援されるべきで、そのようなスキルが教員に求められることとなると思います。ただ現在教員にはそのようなスキルを十分に学ぶ機会はないのが現状です。一方地域によってはすでに学校現場への作業療法士の配置によって一人ひとりの子どもに見合った支援が試みられているケースもあります。今後どうなるかはわかりませんが、募集対策ではそういった子どもへの支援の場が作業療法士としての活躍の場の一例として示され、具体的なキャリア形成のイメージが浮かべられるとよいのではないかと考えます。また、高校生は学校を調べる際にまずはホームページや SNS などの情報を確認することが多いようです。ホームページは明るい雰囲気でも見やすいと思いますが、「在校生のインタビュー」などで動画を使った情報提供があればよいかとも感じました。</p>
--------------------------	--

<p>基準 8 財 務</p>	<p>① 特に問題はないと思います。</p> <p>② 財務に大きく影響があると思われる「退学者」の減少に尽力していただきたいと思います。病院で働くセラピストも近年、退職の際にセラピスト自体を辞めてしまうケースが増えてきています。資格を得てない学生なら尚更辞めてしまうことに対するハードルは低くなっているとは思いますが。また、「休学者」に関しても一定の学費を納めてもらってよいのではと考えました。</p> <p>③ 専門家とよく相談をして尽力してください。</p> <p>④ 特になし。</p> <p>⑤ 定員割れの影響で経常収支が赤字になってしまいました。財務基盤は安定していますが、定員割れの問題を解決する必要があります。</p> <p>⑥ 学生数の減少が財務に大きく関わるため、学則変更等により財務の維持をしていることを知りました。今後も安定した経営に向けよろしくお願いいたします。</p> <p>⑦ 募集対策によるところが大きいと思います。</p>
<p>基準 9 法令等の 遵守</p>	<p>① 法令遵守や第三者評価の実施が適切に行われているのであれば、問題はありません。ハラスメント防止や個人情報保護への取り組みも進められており良いと思います。</p> <p>② 問題ないと思います。</p> <p>③ 最近は教員はハラスメントに対して理解を深めてきていると思うが、学生自身が加害者になりうるということの認識が薄い気がする。つまり、学生がハラスメントを受けた時の対応だけでなく、学生の不具合な言葉や態度が、対象者のみならず実習指導者や教員に対してハラスメントとなることも臨床実習前に伝えてほしい。</p> <p>④ 特になし。</p> <p>⑤ 特に指摘すべき事項はありません。</p> <p>⑥ 適切に運営されていると思います。</p> <p>⑦ 法令を遵守したうえで適正に運営されていると思います。</p>
<p>基準 10 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>① 地域との連携活動が多様化している点は評価できます。今後の市との協定による展開も期待されます。学生のボランティア参加促進や、授業への地域課題の導入は、教育効果と地域貢献の両面で有効であり、積極的に推進されることを望みます。</p> <p>② 様々な活動を展開していると思います。</p> <p>③ これからも、地域とのやり取りをお願いできればと思います。</p> <p>④ 特になし。</p> <p>⑤ 小金井阿波踊りやヒガコ・サマーフェスティバルなど、地域のボランティアの募集が行われました。</p> <p>⑥ 学生にもぜひ地域を知っていただく機会になることがあればより良いと思います。</p> <p>⑦ 社会貢献・地域貢献に関しては、企画運営の場面でどのくらい学生が関わっているのでしょうか。高校では探究学習の中で地域貢献に関するプログラムを組んで学んでいる学校も多く見られます。理学療法士としてまた作業療法士としてどのように地域社会に貢献できるのかを考えさせることで、自身のキャリア形成につながるのではないのでしょうか。</p>

<p>その他の ご意見</p>	<p>① 特になし。 ② 特にありません。 ③ 入学者対策も大切ですが、教育的にも財政的にも退学者をゼロにすることが有効かと思います。留年や試験の可否に関しても、「将来の患者に迷惑をかけられないから落とす」という観念は控えた方がよいかと思います。その考え方は臨床家としてのもので、今は「教員」なので「遠くの患者」を見るのではなく「目の前の学生」を見ていくべきです。つまり、入学させた以上、どのような学生でも卒業させるべきです。保護者が乗り込んできて「卒業させろ、責任取れ」という人がいます、それに対して教員側はクレームとか無理難題なこと、勝手な言い分と捉える人がいるのなら、それは教員としての本分を放棄しているのではないのでしょうか。とにかく、預かった以上資格を取らせて卒業させる必要があります。極論ですが、学校のお客は学生であり患者ではありません。もし、その人が患者に対して迷惑をかけるのであれば、市場原理で必ず消えていくと思いますので。社医学の先生方には必要のない話しであったなら失礼いたしました。ご容赦ください。 ④ 特にありません。 ⑤ 特になし。 ⑥ 特になし。 ⑦ 特になし。</p>
---------------------	--